

【キャリア教育センター】令和6年度 FD活動の「年間報告」

1. 学部独自のFD活動についての報告

(1) 公開授業・ワークショップ

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

- ・「キャリア実習(インターンシップ実践型)」公開授業
- ・実施日：7月6日（土）2限、3限
- ・概要：受講生が「インターンシップ学習計画書」をそれぞれの受入企業・団体に発表し、発表を受けた企業担当者が受入学生に向けてフィードバック、インターンシップ前の指導を行う授業を公開した。
- ・参加人数 18名：高等教育機関関係者 10名、民間企業・団体関係者 8名

(2) その他研修会等

- ・「O／OCF-PBL」担当者会議
- ・実施日：3月15日（金）10:00～12:00, 5月23日（木）11:00～13:00, 7月18日（木）11:00～13:00, 8月29日（木）11:00～13:00, 12月19日（木）11:00～13:00, 1月16日（木）11:00～13:00
- ・概要：科目の各授業回の運営方法の共有、授業の振り返り等、科目独自のFD活動となった。
- ・参加人数 25名：教員 22名、職員 3名
- ・「キャリア実習」担当者会議
- ・実施日：4月17日（水）9:30～10:30, 6月5日（水）9:30～10:30, 9月12日（木）11:30～12:00, 10月7日（月）11:30～12:30
- ・概要：科目の各授業回の運営方法の共有、授業の振り返り等、科目独自のFD活動となった。
- ・参加人数 12名：教員 10名、職員 2名
- ・「アスリートインターンシップ」担当者会議
- ・実施日：9月4日（水）15:15～16:15, 3月4日（火）11:00～12:00
- ・概要：科目の学生募集に関する意見交換、科目の各授業回の運営方法の共有、授業の振り返り等、科目独自のFD活動となった。
- ・参加人数 5名：教員 2名、職員 3名
- ・「理工系スタートアップ・キャリアデザイン」担当者会議
- ・実施日：9月5日（木）9:00～10:00
- ・概要：企業訪問報告会についての確認及び共有、科目独自のFD活動となった。
- ・参加人数 5名：教員 2名、職員 3名

2. 総括（今年度の学部FDを通して得られた気づきや見つかった課題等）

キャリア教育センターが開講する产学協働教育科目群については、例年通り、全ての科目で学習成果実感調査を実施した。回答率は、春学期に関しては昨年度の27.5%から47.7%へと約20ポイント向上し、秋学期に関しては昨年度の33.9%から44.1%へと約10ポイント向上した。回答率が改善したのは、昨年度より回答率が大幅に上昇したクラスがあるからである。当該クラスの担当教員がどのような工夫を行って回答率の上昇を導いたのか情報を収集し共有を図り

たい。

回答の傾向としては、例年通り、満足度が高い。「総合的にみてこの科目に満足していますか」との質問に対して回答者の50%以上が「強くそう思う」を選択しており、「そう思う」も含めると回答者の約90%が満足している。また、学習意欲の向上に関する質問に関しても同様で、回答者の約90%が大学で学ぶ意欲が高まったと回答している。引き続き、次年度も同様の成果を得たい。

产学協働教育科目群を通して学生に身につけてもらいたい能力を測定するキャリア教育センター独自の設問（8つの質問項目）に関しても、例年通り、良好な結果が出ている。回答者の90%以上が「できるようになった」と回答している項目が4つ、回答者の80%以上が「できるようになった」と回答している項目が2つ、回答者の70%以上が「できるようになった」と回答している項目が2つであった。その中で、「他の学生と協力して物事に取り組めるようになった」という項目が92%で最も高く、「計画を立てて学習できるようになった」という項目が74%で最も低い。授業の中でペアワークやグループワークが多用されている产学協働教育科目の特色が表れているのではないかと考えられる。

自由記述に関しては、回答数は少なかったが、「学生のうちに企業と関わるという貴重な経験ができて、苦労したけど、モチベーションが上がった」「他の人とのグループディスカッションなどの機会に以前ほど臆せず話せるようになりました」といったような上記の回答傾向を裏付ける内容が比較的多くみられた。また、一部で授業スケジュールに関する改善要望等もあった。

なお、経済産業省・文部科学省・厚生労働省による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」を受けて再編されたインターンシップ・キャリア実習系科目（令和6年度のFD活動における重点テーマ）に関しては、どの質問項目に関しても非常に良好な結果が出ている。とりわけ、準備学習の時間、授業目標の到達、学習意欲の向上、科目満足、将来の進路に関する情報収集、職業適性に関する質問項目は、产学協働教育科目群の全体平均よりも顕著に良好な結果が出ている。キャリア形成支援教育のさらなる発展を図る際には、产学協働教育科目群の中でインターンシップ・キャリア実習系科目のラインナップを一層充実させていくことが、有力な選択肢になるのかもしれない。

3. 次年度に向けての取り組み

令和6年度に実施した学習成果実感調査の結果については、担当教員にフィードバックし、次年度の授業改善に役立てる。次年度以降も全ての科目において学習成果実感調査を実施して授業改善につなげるとともに、キャリア形成支援教育の発展を今後どのように図っていくのか検討する際の資料としたい。

※この内容は当該年度終了後、本学におけるFD活動の一環として、本学HPに掲載します。